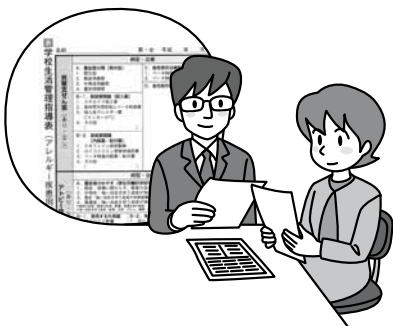


悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



イラスト／清水直子

第 40 回

入園・入学のシーズン

心配な食物アレルギーの対応

❀ 除去食は？ 誤食の防止は？
緊急時の対応は？

期待が膨らむ入園・入学、進学
の季節がやってきました。一方で、ア
レルギーの子どもたち、特に食物ア
レルギーの子の保護者にとっては大
きな心配に直面する季節でもありま
す。給食にアレルギーを除いた除去
食は出してもらえるのか、誤食を防
ぐ対策は大丈夫か、急な症状に備え
た自己注射「エピペン」を学校や園
は預かってくれるのか、いざという
ときには使ってもらえるのかなど、
心配は増えるばかりです。まして昨
年12月に学校給食で死亡事故が起き
たこともあり、「母の会」に相談を
寄せる人が増えています。

心配なのは保護者だけではありま

せん。ここ数年、「母の会」は神奈
川県と協力して学校や保育所などの
教職員に向けた小児アレルギー専門
医が担当する研修を行なっています
が、事故以降に企画した研修会に
は定員の2倍を超える参加申し込み
があり、多くの方の参加を断らざる
を得ませんでした。その傾向は他の
研修会でも同様で、教職員の方々の
関心は急速に高まっています。ただ

一方で、事故をきっかけに取り組み
が後退した地域があるのは残念です。
そこで大切なのは、私たち保護者
の声ではないでしょうか。すでにこ
紹介したように「学校のアレルギー

―疾患に対する取り組みガイドライ
ン（監修：文部科学省）、「保育所
におけるアレルギー対応ガイドライ
ン」（厚生労働省）が出され、国は学



そのべ・まりこ ● 神奈
川県社会福祉協議会セ
ルフヘルプ支援事業運
営委員。困っている患
者と専門医との橋渡し
を第一に「治療ガイド
ライン」情報などの提
供、専門医による講演
会や会報発行、行政へ
の働きかけを行なっ
ている。共著に『食物ア
レルギーの手びき 改
訂第2版』（南江堂刊）。

校や保育所などでの対応を進めよう
としています。ただ現状は、この方
イドラインに沿って対応を進めてい
る地域、形だけの取り組みの地域、
まだまだ取り組みが始まっていない
地域などばらばらです。

❀ ガイドラインに基づいて
対応を求めよう

大事なことは保護者もこうした方
イドラインがあることを知り、けん
か腰ではなく、粘り強く、ガイドラ
インにある「生活管理指導表」を提
出して対応に理解を求め、取り組み
を進めてもらうことだと思います。
この道筋が、回り道のように思えて
も最も着実な取り組みにつながるこ
とを、これまでの「母の会」の経験
から確信しています。